

“ 今月 ” を理解する

# メディアレビュー

# MIX

書籍、雑誌、ウェブ、ストリーム、テレビ番組……毎月、何千万ものコンテンツが世に出ている現代。情報の波をうまく乗りこなすにはどうすればいいのか、どの視点からコンテンツを見ればいいのか。今月は、特集「インターネットの新常識10」で取り上げたテーマを、さらに深く読み解くためのメディアをレビューする。

## 特集「インターネットの新常識10」を深める

MEDIA REVIEW MIX



### Linux 革命が本当にブレイクするのは どの地域からかを読み解く

オープンソースがどのように各国の戦略に呑み込まれているか。その全体像を一望のもとに見渡すことのできる貴重なサイトが、この「オープンソースと政府」だ。三菱総合研究所主任研究員の比屋根一雄氏が中心となり、同研究所の研究者たちによってまとめられている。

オープンソースというものを媒介にして、世界の各国がマイクロソフトのOS市

かという。しかしそれだけに米国の圧力は激しく、たとえば昨年4月にオープンソースの使用を義務づける法案が議会に提出されたペルーに対しては、米国大使が法案の再考を促す書簡を送り、マイクロソフトのビル・ゲイツ会長も55万ドルの寄付を携えてペルー大統領を訪問したという。

またオセアニアに目を向けると、オーストラリアでは全国約700の地方議会のうち、約30の組織が基幹アプリケーションのプラットフォームとしてLinuxを採用。一見少ないように見えるが、昨年システム更新されたうちの4割がLinuxに移行したといい、かなりドラスティックに事態は進行している。こうした動きは、国際社会の周縁部で大きく進んでいるのかもしれない。アジアでも、パキスタンはLinuxを搭載した100ドル以下の低価格パソコン5万台を、全土の学校や大学に配布する計画を進めているという。デスクトップ向けのパソコンでは、確かにLinuxマシンは強力な低価格マシンとしての存在感を強めている。同国政府高官は「すべての政府サービスがGNU/Linuxベースになる最初の国家となったとしても、驚かないでほしい」と言っているというから驚きではないか。こうした場所から、Linux革命はブレイクすることになるかもしれないのだ。

場の独占や米国の経済支配をどのように見ているのか。このサイトを見ていると、その視点が明快に浮かび上がってくる。たとえば中南米。もちろん、現地の購買力平価で考えると途方もなく高価なウィンドウズのライセンスコスト削減という狙いもある。しかしそれ以上に、米国の支配に絶えず脅かされた歴史的経緯から、オープンソースに「米支配からの自由」という思想的意味合いを込めているのではない

#### Report NO. 1

#### 『オープンソースと政府』

URL <http://oss.mri.co.jp/>

世界のオープンソース政府調達動向を地域別に整理しながらウォッチするとともに、日本政府のオープンソースソフトウェア採用に関連した情報をまとめて提供している。関連ニュースのリンクが充実しているが、三菱総合研のアナリストたちによるレポートも非常に内容が濃い。



### 『マスタリング TCP/IP SIP 編』

著者：ヘンリー・シンレイク

出版元：オーム社

価格：3,800円

人気シリーズ「マスタリング TCP/IP」で、IP電話の代表的なプロトコルSIPを扱っているのが本書。ただし、SIPの詳細な仕組みよりも、SIPを使ってどのようなサービスを提供できるかなどに主眼が置かれている。

## SIPの動向から、IP電話が提供する 未来のサービスを予測する

SIPとは、話題のIP電話サービスを実現するための主流プロトコルである。つまり SIPの動向を見れば、IP電話が抱えている問題点や今後提供されるであろうサービスの予想ができるのだ。

SIPとは「Session Initiation Protocol」の頭文字をとったプロトコルであり、RFCにおいて規定されている通信に関する勧告の1つである。SIPはその名のとおりに通信セッションを作るためのものであり、IP電話のためだけのものではない。この本では、前半においてSIPの動作メカニズムや概念について技術的に紹介している。特に、今後IP電話に関して開発や障害解析を行うエンジニアにはぜひとも目を通しておいてもらいたい内容である。

しかしこの本で特に目を引くところは後半の、特に8章以降に記された内容である。

ここには現在検討中の拡張技術めて紹介されているのだ。検討されているということは、言い換えればまだサービスされていないものであるということである。つまり、ここにある内容が現在のSIP、ひいてはIP電話サービスが抱えている問題点であり、将来像でもある。しかも技術的な内容だけではなく運用形態まで書かれているので、ビジネスモデルの雛型としても読むことが可能である。当然、市場で求められている「認証」などのセキュリティに関することも含まれている。

そして最後には、将来のために検討が継続されているサービスとして「聴覚障害者のためにSIPをどう使うか」という項目を紹介して閉じている。エンジニア以外の人が、興味のある部分だけ読んで也十分に楽しめる一冊である。

## 多くある著作権解説サイトのなかでも 抜群の“わかりやすさ”を誇る

法律系のサイトは多数あるが、その中でも異色を放つサイトの1つ。VNIというジャンルのサイトなのだが、ここではVNIの説明は措いておこう。このサイトは、真紀奈という17歳の少女をパーソナリティーとして運営されている。内容は知的財産法分野のニュースの紹介と解説で、専門的なニュースを普通の人にもわかるように説明しようと努力されている。法律という堅いイメージがあるが、それをとっつきやすくしてくれるという意味だけをとっても、これはおもしろい試みではないだろうか。

少女の絵をトップに置いているという時点で敬遠する人も多いかもかもしれない。しかし、内容的にもおもしろくおすすめできる。著作権に興味を持っているのだけど、本格的に勉強するのはちょっと……という人にとってつけだろう。

主要なコンテンツとして「真紀奈の著作

権法講座」がある。これは著作権法についてやさしく解説を行うおうというものであり、著作権法のうちウェブサイトオーナーやユーザーが必要とするだろう部分を解説している。現在改訂中とのことだが、現バージョンでもこれだけ読んでおけば著作権法について結構理解することができる。

またファイル交換サービスWinnyについてそのユーザーや作成者が罪に問われるかどうかについて述べたレポートや、文化庁の発表した自由利用マークと先月号で特集を組んだCreative Commonsを比較したものなど、インターネット上での著作権について語られたコラムが多くある。ウェブでの著作権問題について語っているサイトは少ないので、参考になるだろう。今後が楽しみなサイトのひとつだ。



VNI NO.3

### 『バーチャルネット法律娘 真紀奈17歳』

URL <http://members.jcom.home.ne.jp/makina17/>

知的財産法、特に著作権法関連のニュースを中心に、「著作権法講座」などのコンテンツがあり、体系的に著作権法関連の動向を理解できる点がうれしい。特に重要だと思われる項目には読み応えのあるレポートも掲載。

## 無線LAN専門サイトで 海外の製品のニュース、評価をチェック

現在、全世界的に無線LANの普及に弾みがついている。そこで、無線LANに少しでも興味のある人は見ておいたほうがいいのが、ここで紹介するウェブサイト、その名もズバリ「802.11 PLANET」だ。IEEE 802.11規格の無線LANに関係あるニュースなら、新製品の発表から規格の変更に関するものまでテンコ盛りで掲載されている。情報はすべて英語なので英語が苦手な人はすっぱり諦めたほうがいいが、日本以外のところで起こっている無線LANに関する情報収集をするならばこのサイトは必ずチェックすべきだ。

日々のチェックとしては同サイトのNewsが最大の情報源であり、かつ仕事にも役立てられるのでおすすめであるが、意外と楽しめるのは製品レビューや製品紹介である。日本に進出していないで、かつ良

そうなものがこんなにもあるのかとあらためて驚くに違いない。しかし、製品レビューは、仕事で無線LAN動向に関係していないので英語のウェブサイトでは見る気になれないという無線LAN製品ユーザーにもおすすめだ。無線LANに限った話ではないが、この業界では台湾メーカーが基本的な製品を用意していて、あとの企業は自社のロゴを張ってマーケティング活動をするというパターンが多い。この802.11 PLANETの製品レビューを見ていると「アレ？ これって見たことある形だなぁ」というものがかなりあって楽しめる。

このサイトでの唯一の不満は写真やスクリーンショットがほとんどないという点だろうか。しかし、それを差し引いても無線LANに関する専門情報サイトとしての魅力は薄れることはない。



『802.11 PLANET』

URL <http://www.80211-planet.com/>  
米国ジュビターメディア社によって運営されている無線LAN専門のサイト。同社は世界的に評価の高い無線LAN製品の展示会「802.11 PLANET Conference & Expo」を定期的に関いているだけあって、最新機種の評価など、内容は充実している

### MEDIA REVIEW MIX



『Grid Engine Project』

URL <http://gridengine.sunsource.net/>  
SUNによって運営されている「Grid Engine」は、50万行におよぶ「Sun ONE Grid Engine」のコードを公開しているサイト。FAQなどのサポートコンテンツも充実している。

## 「Sun ONE Grid Engine」で グリッドコンピュータの世界を体感する

多数のコンピュータをつなぎ、仮想のハイパワーコンピュータ環境を構築するソフト「Sun ONE Grid Engine」。これは商用版としてSunから発売されているが、オープンソースとしても全ソースコードが公開されている。このサイトに行けば「Sun ONE Grid Engine」の全ソースコードを見ることができるよう、Linuxと同じように自分の考えをソースコードに反映させることも可能である。

またドキュメントやFAQも充実しているので、無償版の「Sun ONE Grid Engine」をダウンロードして利用するユーザーにも強い味方になるだろう。

そのほかSolaris( SPARC版とx86版 ) およびLinux版以外のOS向けのバイナリーも入手できる。このバイナリーはオープンソースプロジェクト参加者によって作成されたもので、3月14日現在IBMのAIX

4.3、HPのHP-UX 10.20および11.00、コンパクのTru64 Unix 5.0および5.1、SGIのIRIX 6.2から6.5、またAlpha用のLinux版も登録されているので、主要なUnixマシンからなるヘテロジニアス( 異機種混在 )なグリッド環境を構築できる。さらにサイトから簡単な操作でグリッドを使えるようにするポータルサーバー用サーブレットもオープンソースとして公開された。

また最近「Grid Engine」を利用するためのJavaのRMI( Javaで、異なるマシン間でもオブジェクト同士がメッセージをやりとりできる環境を実現するための手法 ) であるJGridのプロトタイプも公開された。

“Run Anywhere”という特徴を持つJavaこそグリッドにもっとも相応しいプログラミング言語だが、このJGridによってJavaとGrid Engineの親和性がさらに高まることが期待される。

## 「IPv6 Style」でインターネットと我々の生活のかかわりを読む



『IPv6 Style』

URL <http://www.ipv6style.jp/>

IPv6関連の最新ニュースから、導入のハウツー、事例紹介、素朴な疑問に答えるコーナーまで、IPv6と名のつくものならずべて押さえているといっても過言ではない「IPv6ポータルサイト」。

IPv6について語ることは、技術について語ることもあるが、インターネットと社会のかかわりを語ることもある。

現在のインターネットは基本的にはキーボードを打てる人だけしかその便利さを受容できない。そのことだけを考えても、インターネットの可能性はまだまだ発揮できる余地がある。IPv6は、現在のIPv4をベースとしたインターネット発展の過程で失われてしまったものを取り戻すことによって、こうした可能性が開くための土台を提供してくれる。失われたものとは、コンピュータ以外のものも含めてあらゆるものが何の制限もなく相互に通信できる環境である。IPv6は用途があつてこそ意味がある。だからこそ、どのように使えるのか、どう使うと新しい価値が生まれるのかを知ることが重要になってくる。現実への適用

例や、応用に向けた取り組みを進める人々の話を聞くことで、イメージが湧いてくる世界である。

試しにIPv6styleの「最前線インタビュー」コーナーに掲載されているソニーのCo-CTO、所眞理雄氏のインタビューを読んでみるとおもしろい。所氏は、今年秋から、ソニーはIPv6対応の家電製品を順次提供していくと言い切っており、最終的にはIPv6はマストだと話している。この話を読むだけで、IPv6がどれだけリアリティーを持って我々の生活に溶け込もうとしているかがよくわかるだろう。

ちなみにIPv6styleはIPv4だけでなくIPv6からもアクセス可能であり、日本語だけでなく英語でも提供されている。これはIPv6の活用で日本が世界から注目を集めていることを反映している。

MEDIA REVIEW MIX

## 「エンタープライズシステム」の解説ページとしては抜群の読みやすさ

エンタープライズシステムについて理解するならば、まずIBMのインダストリーソリューションのページを参考にするといい。内容的には、NEC、富士通などの同様のページの方が具体的により細かく書いてあり情報量も多いのだが、これらのページは製品単位、ニュースリリース単位で構成されており、「情報を掘りさげていく」という意思を読者がしっかりと持っていないと、エンタープライズシステム全体への理解までたどり着けない。

それに対しIBMのページはなるべく一般的な形で情報を提供しようとしているので、エンタープライズシステムがどんな方向に進んでいるのかを概観する上では役に立つだろう。また、比較的技術主導ではない書き方とあいまって、「現場の声」に近い印象を受ける点もおもしろい。そういう意味ではまず入門ページを探す

人にはうってつけのページだ。

エンタープライズシステムの情報と言うと、少々無味乾燥な感じがする。そういう意味でも、IBMは興味を持って読ませることを前提としていて、好感が持てる。

まずは興味を持ってもらい、無味乾燥なニュースレター、詳細な製品情報はその他の企業のホームページなどから別途集めてくれればよいのだ。

少々難癖をつけると、どの企業のソリューションのページも英字省略語の氾濫が目立つので、用語集、記事からのハイパーリンクをつけてものがあれば、より参考になるだろう。



『IBM インダストリーソリューション』

URL <http://www-6.ibm.com/jp/domino07/fss/finnet.jsp>

IBMの企業向けソリューションを紹介するページだが、ただ、商品を紹介するだけでなく、この分野のソリューションがどのような動きをしているのか、ニュースなどで確認することができる。

Solution NO.7



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)